

今月の星空



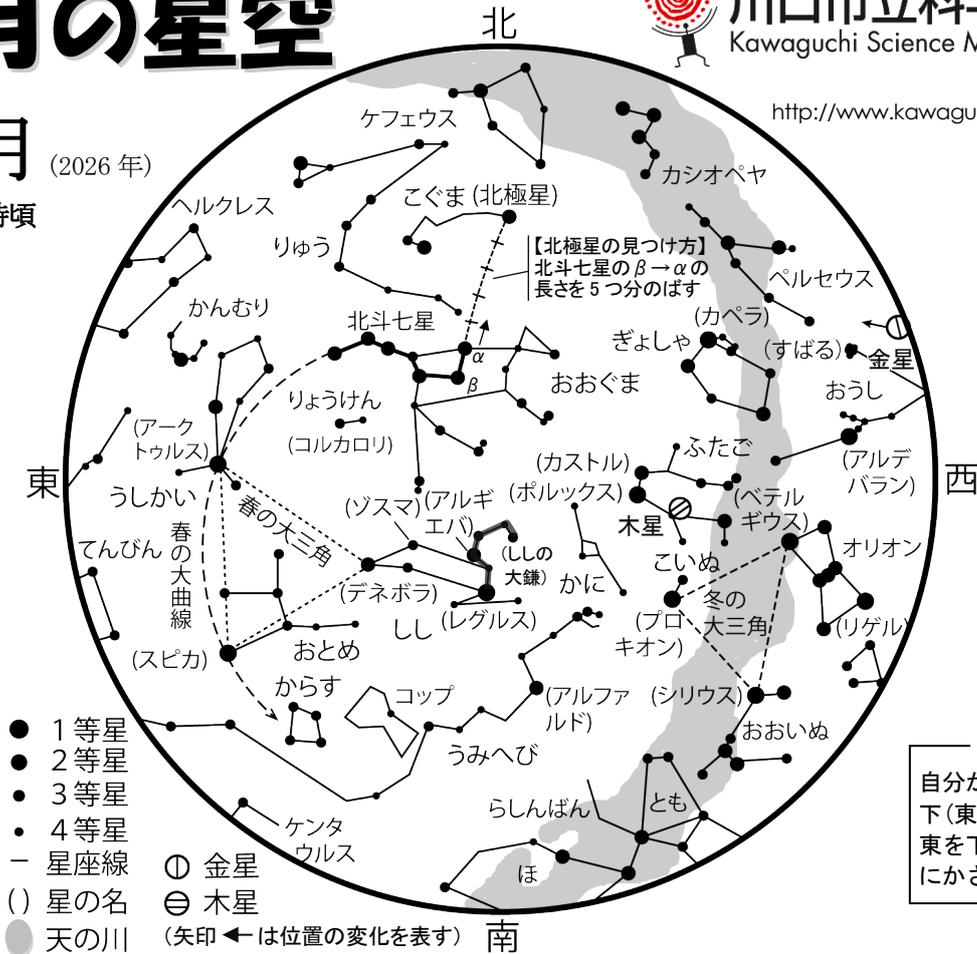
川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

<http://www.kawaguchi.science.museum/>

4月 (2026年)
中旬 20時頃



月 齢 ○ 満月 2日、● 下弦 10日、● 新月 17日、○ 上弦 24日

惑星情報 金星 日の入後 西(おひつじ→おうし座 -4等) 木星 夜のはじめ頃 西(ふたご座 -2等)

★金星と春を代表するしし座を見つけよう

穏やかな気候で夏ほど日暮れも遅くない春は、夜空を見上げやすい時期です。夜空には春の星座が広がっています。ただし、明るい星が少ないため、目立つ星が多い冬の星座や惑星がある西の空から眺めて目を慣らしましょう。まずは、次第に暗くなる夕焼け空に映える金星です。-4等と非常に明るく輝きますが高度が低いため、沈む前の18時台~19時台がおすすめです。金星が沈む頃になれば、同じく西の空高くに、木星(-2等)が見つかるでしょう。周辺では、オリオン座や冬の大きな三角がまだ見つけられます。さて、南の空へ目を向けると春を代表するしし座が昇ってきています。この獅子はギリシャ神話に登場し、英雄ヘラクレスに退治される化け獅子です。市街地で見ると、平たい台形をイメージし、レグルス(1.4等)からアルギエバ(2.0等)、ゾスマ(2.5等)、デネボラ(2.1等)とたどることができます。

★北斗七星からわかるおおぐま座の大きさ

春の夜空でしし座の他に見つけやすい星の並びが北斗七星です。北極星を見つける目印としてもよく使われます(星図参照)。この北斗七星は、星座とは異なる星の集まり「アステリズム(以下参照)」の一つであり、おおぐま座の一部(腰からしっぽの部分)です。北斗七星以外は暗い星が多いため、おおぐまの全体像を市街地の空でたどることは難しいのですが、星図を見れば、空の広い範囲を占めていることがわかります。この大きさは全88星座中、第3位*です。どれほどの大きさであるかは、その一部である北斗七星を見つけるだけで実感できるのではないのでしょうか。北斗七星の大きさは角距離(星の間隔や高さなどを角度で表したもの)で約25度です。これは冬の大きな三角の1辺の長さとはほぼ同じです。

*星座の大きさ: 1位うみへび、2位おとめ、3位おおぐま(ここまで春の星座)、4位くじら、5位ヘルクレス

ワンポイント~星の目印「アステリズム」を上手に使おう~

アステリズムとは、「夏の大きな三角」のような星座とは異なる特徴ある星の並びや集まりのことで、星座探しの際にもなる便利なものです。「北斗七星」や「ししの大鎌」、「春の大きな三角」、「春の大曲線」などがそれに当たります。一般に星座のような世界共通の定義はなく、国や地域でも異なります。「春の大曲線」は日本発祥のアステリズムのようです。自分だけのアステリズムを考えてみるのも面白いでしょう。